



大分県は6月から、県内の旅館・ホテルに宿泊する県民向けの料金割引クーポン「応援割」を始めます。

県民に宿泊料5千円

県が助成、県旅館組合と連携

対策強化 221施設で利用可

大分県は6月から、県内の旅館・ホテルに宿泊する県民向けの料金割引クーポン「応援割」を始めます。県旅館ホテル生活衛生同業組合と連携し、新型コロナウイルス感染症対策のチェックリストを整備。対策を導入した221施設を利用する客に対し、1人1泊5千円を助成する。8月2日まで。感染症対策を強化した「新しいもてなし」を周知し、多くの県民に安心して利用してもらいたいと考えた。

県が宿泊料金の割引サービスを設けるのは、熊本・大分地震（2016年）で落ち込んだ観光客を呼び戻すための九州ふっこう割以来。今回はコロナ禍で深刻な打撃を受けた観光業界の支援策の一環で企画した。

人以上で予約する場合は1万円を上限とする。1人当たり計3回まで利用できる。宿泊者は差し引き後の料金を支払う。県は関連予算6100万円を計上している。

応援割は別府、由布、日田など10市2町の宿泊施設へ県内在住者が宿泊する際に適用する。1回の予約につき1人5千円を助成。2

インターネットの専用予約サイト「じゃらんnet」か「楽天トラベル」を通じて申し込む。6月1日午前10時から受け付ける。助成対象の221施設は組合、県が4月24日にまとめたチェックリストを取り

入れる。密閉など「3密」の回避を基本に▽従業員の体調確認やマスク着用、施設消毒の徹底▽食事は個室対応ができない場合、レストランでグループの間隔2席を確保する▽浴室の混雑を避けるため時間帯によって人数を制限―など23項目を定めている。宿泊者にアンケートを実施し、対策の改善に努める。組合は約400軒の旅館・ホテルが加盟している。

消毒液やマスクなどの衛生用品を十分に確保できないケースも少なくないため、約半数の施設でのスタートになった。準備が整えば、対象の追加も検討する。県庁で会見した組合の西田陽一理事長は「県民の皆さんと一緒に新しい旅のスタイルを確立したい」。掘精治専務は「旅館・ホテルは大変苦しい状況。助けていただきたい」と呼び掛けた。政府は首都圏や北海道への緊急事態宣言を25日に解除。しばらくの間は他県への移動を伴う観光の自粛を求めている。県観光局は「まずは県内観光の推進をしっかり図る」と話した。（渡辺天祐）

① 「応援割」とはどのようなものですか？説明してください。

別府、由布、日田など10市2町の宿泊施設へ県内在住者が宿泊する際に適用。1回の予約につき1人5千円を助成。2人以上で予約する場合は1万円が上限。1人当たり計3回まで利用できる。宿泊者は差し引き後の料金を支払う。

② 対象となるのはどのような施設ですか？

県がチェックリストとしてまとめた新型コロナウイルスの感染対策を導入した221施設が対象。

③ 県が「応援割」の割引サービスを企画した理由は何でしょう？

新型コロナウイルスの感染拡大で深刻な打撃を受けた観光業界の支援策の一環として企画した。感染症対策を強化した「新しいもてなし」を周知し、安心して利用してもらうため。

④ 県と連携してこの制度を始める県旅館ホテル生活衛生同業組合の関係者は何と話していますか？

「県民の皆さんと一緒に新しい旅のスタイルを確立したい」「旅館・ホテルは大変苦しい状況。助けていただきたい」